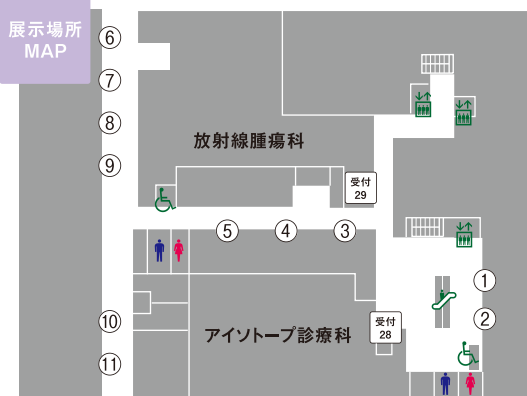


# B1F

窓のない地下空間を  
明るい印象に変える作品や、  
検査・治療前にした不安な気持ち  
がやわらぐような作品を展示しています。

快活になる×空間を明るくする  
癒しを感じる×リハビリに繋ぐ



- 展示作品リスト(大阪国際がんセンター所蔵)
- ① 宮本順三(チベットラサの雪嶺節)1986年
  - ② 宮本順三(青海の祭り)1988年
  - ③ 松本晃(配置<転回W7>)1990年
  - ④ 百瀬寿(SQUARE-SILVER & GOLD BY S AND G)1986年
  - ⑤ 百瀬寿(SQUARE-MAGENTA AND BLUE BY S AND G)1986年
  - ⑥ 三木淳(華のある風景(サイパン島))1989年
  - ⑦ 三木淳(華のある風景(グアム島))1989年
  - ⑧ 三木淳(華のある風景(サイパン島))1988年
  - ⑨ 三木淳(華のある風景(サイパン島))1988年
  - ⑩ 三木淳(華のある風景(ミコノ島))1989年
  - ⑪ 三木淳(華のある風景(ミコノ島))1989年

## 宮本順三

- ①(チベットラサの雪嶺節) (左)
- ②(青海の祭り) (右)



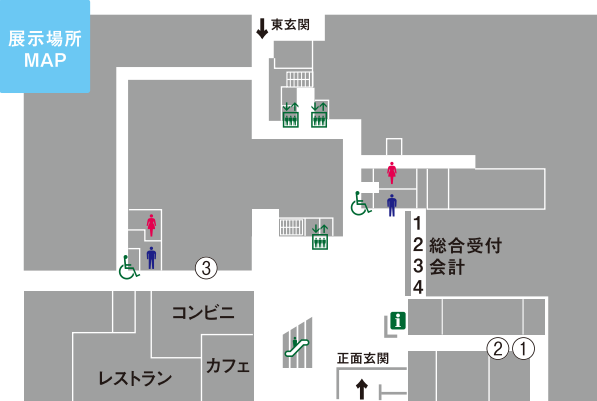
「祭りと踊り」をテーマに、チベット族の伝統行事やチベット仏教の祭りの様子を色彩豊かに描いた作品群。窓のない地下空間に、光に溢れる空や人々の信仰と喜びを想起させるような作品を展示することで、彩りと賑やかで明るい空間を演出します。

# 1F

癒しを感じる×  
落ち着かせる

緊張感や不安な気持ちを癒すことができる  
写真作品を展示しています。

- 展示作品リスト
- ① アーヴィング・ベン(チューリップ)1967年
  - ② ベン・マグリッド・ラビニッチ(カラウリ)
  - ③ [BiG-i Art Collection 2013]公募入選作品展示



# 2F

## 大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品



新進芸術家発掘のため、建畠哲夫、秋元雄史氏を審査員に迎えた絵画公募プロジェクトを行い、巨大なキャンパスの入選作品1点を選出しました。

### まつながえみ

《アカツクワンダーランド》

※展示場所については2F展示場所MAPをご参照ください。

### 作品コンセプト

昼と夜の入り混じった夕暮れ時の光  
風景が輝き出す瞬間  
自然、空気、時間、出会った人々  
いろんなものから力をもって  
前を向いて生きていく。  
未来に向かって進んでいく。

### 選評

#### 建畠 哲 (多摩美術大学学長)

病院の絵画というのは心理的な効果においてもなかなか難しい条件を満たさなければならないが、まつながえみは確かな技量で見事にクリアしているように思う。入選作品は画面の奥に明るい光をたたえた樹木の茂みの光景で、逆光に浮かび上がる葉のシルエットの重なりが美しい。柔らかな色調が相まって、どこか不思議なファンタジーを感じさせる作品であり、病院を訪れる人たちの心を優しく和ませてくれるに違いない。

#### 秋元 雄史 (元東京芸術大学教授・大学美術館長)

「アカツクワンダーランド」は、4.5m×2mの大作である。まっとう診療室の大きな壁に似合うだろう。この作品は、日の出頃のほかに明るくなってきた時間帯の森を描いている。一種の幻想世界かと思う。斜めから差し込む光が空間を満たして森全体に広がっていき、植物はシルエットになっている。朝を迎えるときの独特な輝きをもった時間帯だ。この作品は、診療を待つ人たちが癒やしている人たちの心の憩いになるだろう。

# 1F

## 「BiG-i Art Collection 2013」公募入選作品展示

障がいのある人たちの社会参加を進めるとともに、アートを通じて共に生きる喜びを社会に発信するプロジェクト(2013年 主催：国際障害者交流センター ビッグ・アイ)の入選作品4点を展示しています。

### その他の展示作品

- マルコ・バルビエ<ロッテルダム橋>
- 松本美千代<鹿>
- タケル・シュレスト<無題>

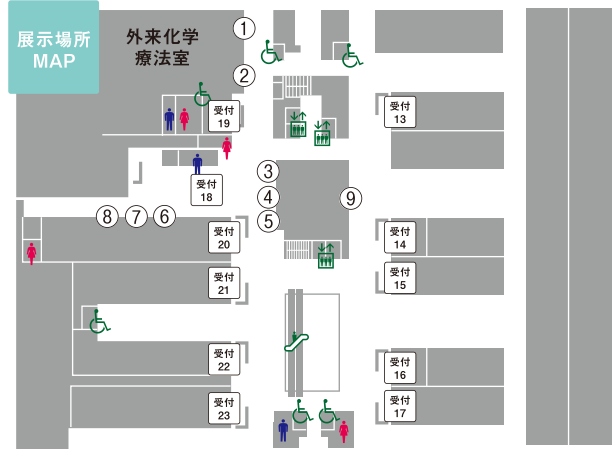
岩坂晋哉  
《カラフルバラと理想のパス運行表》  
※展示場所については1F展示場所MAPをご参照ください。



# 2F

快活になる×空間を明るくする

診察に訪れる人が多く利用するパブリック性の高い空間に「アートな病院」の顔となるような代表的な作品を展示しています。大きな画面、力強い色彩など、印象的な絵を見ることで生き生きとした気持ちになってもらえるような空間を演出します。



### 《島の日曜日》

金光は1970年頃より気象現象や季節や自然の移り変わりなどをテーマに作品制作をしてきました。本作では金光が過ごした西海岸周辺の島のもつゆったりとした雰囲気や表情が色彩豊かに清々しく描かれています。



《波 23》

《夜空》

### 展示作品リスト

- ① 迫畑和生(HEART BREEZE-C)1998年
- ② 野田正明(FIRST MOMENT)1984年
- ③ 津高和一(芽包)1957年
- ④ 津高和一(囲まれた空間A)1955年
- ⑤ 津高和一(方)1962年
- ⑥ 金光松美(島の日曜日)1978-79年
- ⑦ 金光松美(波 23)1983年
- ⑧ 金光松美(夜空)1979年
- ⑨ まつながえみ(アカツクワンダーランド) /大阪国際がんセンター絵画公募プロジェクト入選作品

### 金光松美

#### ⑥《島の日曜日》⑦《波 23》⑧《夜空》

金光松美(1922年アメリカ生まれ1992年没)  
1950年代以降の抽象表現主義を牽引した旗手の一人として、戦後アメリカで活躍した帰米2世の日本人画家です。アメリカで生まれ、3歳から18歳を広島島の祖父の元で過ごしました。その後、単身渡米し、2重国籍であったためアメリカ軍に徴兵されます。日系人を取りまく環境が厳しくなる中、絵を描くことができたことで将校の肖像画や、新聞の挿絵を描くなど、軍の中でも画家として扱われるようになります。初期には具象作品を描いていましたが、ニューヨーク美術学校での学びや交友関係の影響により、赤、黄、緑といった色彩豊かな抽象作品へと変化してきました。

### 津高和一 ③《芽包》⑤《方》

津高和一(1911年大阪市生まれ1995年没)  
シュルレアリスム系の現代詩人として出発するも言論弾圧にあい、次第に絵画を描くようになりました。50年代は太い線と厚塗りによる抽象造形が中心でしたが、カリグラフィックな叙情的抽象へと移り、70年代には簡潔な色面と線描による平面的な表現へと変わりました。作品の根底に流れているのは、詩人としての自由な感性による表現であったといえます。展示の3作品はどれも穏やかな色調で、リズムカルな表現であり、緊張した心を和らげてくれます。



《芽包》

《方》

### 鑑賞に際してのお願い

- ・作品にはお手を触れないでください。
- ・作品や展示風景の写真・ビデオ撮影はご遠慮ください。
- ・診察や検査にお越しの方の通行の妨げにならないようご注意ください。



表紙の作品: 津高和一 《囲まれた空間A》  
展示場所: 2F (MAP④)

## 大阪国際がんセンター「アートな病院プロジェクト」

2017年3月の移転・オープンにともない、「患者の視点に立脚したサービスの提供」の一環として「アートな病院プロジェクト」を立ち上げ、大阪府が所蔵する美術作品(大阪府20世紀美術コレクション)を外来および病棟の各フロアに展示しています。多くの方が来訪する2階および3階の外来には「アートストリート」を設け、主要な作家のアート作品を多数展示しています。

また、2階には新進芸術家の応募作品の中から入選した、横4.5m×縦2mの絵画(1作品)の展示を行っています。

センター内の各所にアート作品を鑑賞できる環境を設け、外来診察待ち時間やご入院中の患者さん、ご家族の方に鑑賞いただくことで癒し(精神的なストレスの軽減)を提供しています。

### 大阪府20世紀美術コレクション

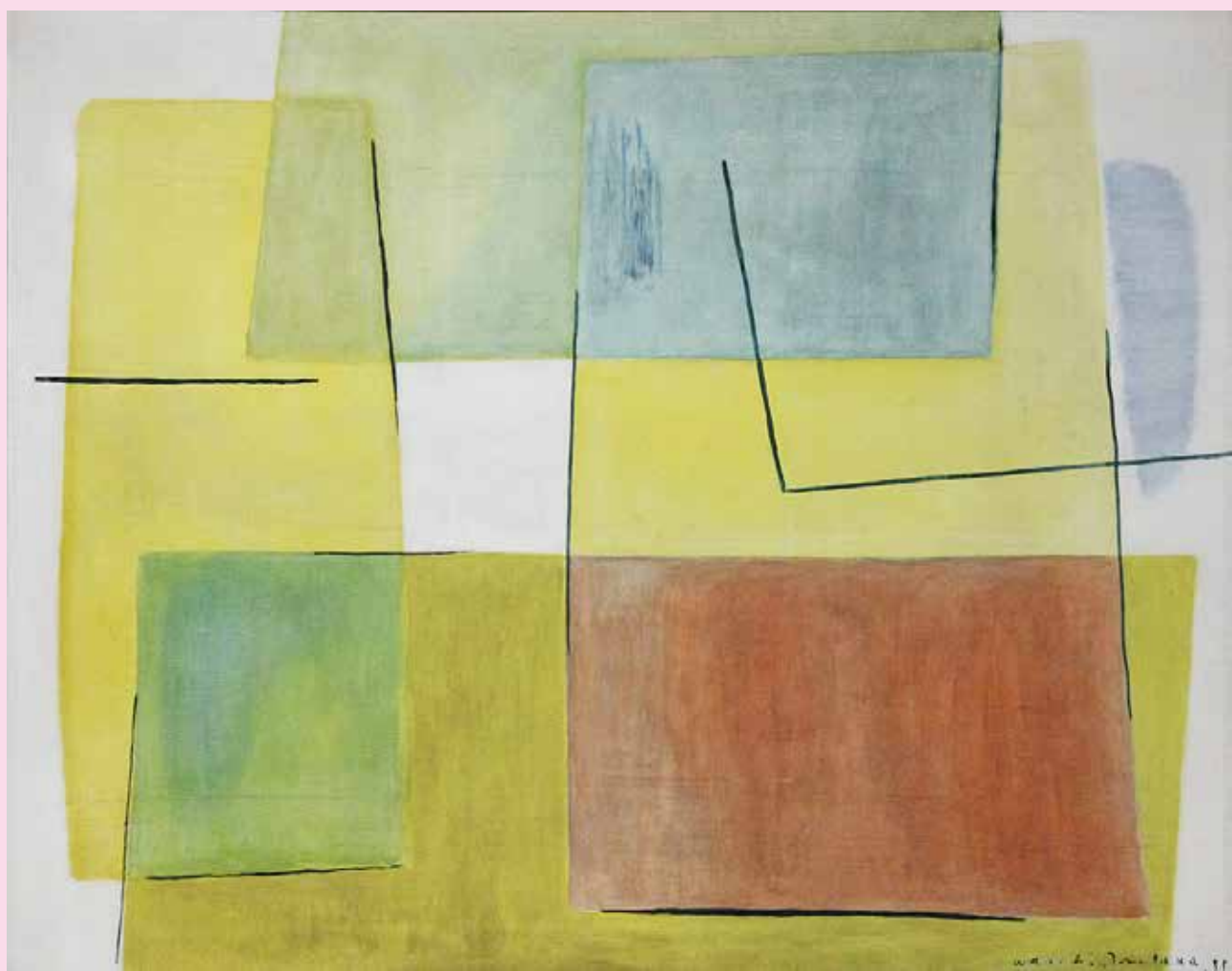
大阪府では国内外の20世紀後半の美術作品を中心に、約7,900点におよぶ、さまざまな美術作品を「大阪府20世紀美術コレクション」として所蔵しています。「関西の現代作家コレクション」「世界の現代美術」「現代版画コレクション」「現代写真コレクション」など、絵画を中心に、写真や版画作品も多数あり、それらの管理と活用は大阪府立之子島文化芸術創造センター [enoco] が行っています。enoco館内での年数回の企画展のほか、外部への貸し出しやアートコーディネートも積極的に行っており、医療機関では大阪精神医療センターなどにも作品が展示されています。



## Osaka International Cancer Institute The Artful Hospital Project 2024



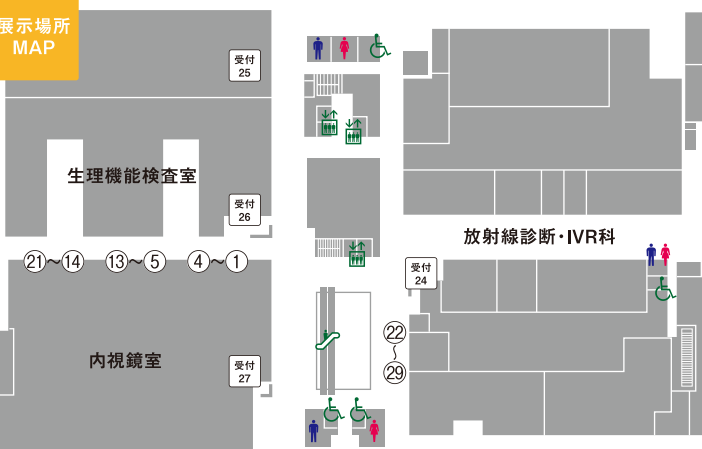
大阪国際がんセンター  
「アートな病院」プロジェクト



# 3F

落ち着かせる×コミュニケーションを生む

さまざまな人が行き交う場所であることから懐かしさを感じる落ち着いた作品や、患者さん同士や当センター職員との会話の糸口になるような親しみを感じさせる作品を展示しています。



### 展示作品リスト

- ① 伊藤継郎(モンブラン)1974年
- ② 伊藤継郎(スペイン裏街A)1975年
- ③ 伊藤継郎(イタリーの風景C)1965年
- ④ 伊藤継郎(ハリの屋根)1965年
- ⑤ 伊藤継郎(ギリシャ老人)1965年
- ⑥ 伊藤継郎(ギリシャの神殿A)1965年
- ⑦ 伊藤継郎(風景)1970年
- ⑧ 伊藤継郎(桜島スケッチ)
- ⑨ 伊藤継郎(鳥(にわとり))
- ⑩ 伊藤継郎(鳥)
- ⑪ 伊藤継郎(花)
- ⑫ 伊藤継郎(花)
- ⑬ 伊藤継郎(花)
- ⑭ 伊藤継郎(馬に乗る少女)1985年
- ⑮ 伊藤継郎(スペイン闘牛スタジアム)1975年
- ⑯ 伊藤継郎(牛)1965年
- ⑰ 伊藤継郎(のぼり竜)1965年
- ⑱ 伊藤継郎(手)1955年頃
- ⑲ 伊藤継郎(壺A)1965年
- ⑳ 伊藤継郎(どうもろこし)1965年
- ㉑ 伊藤継郎(ガラス器のバラ)1991年
- ㉒ 浅野竹二(木陰)1979年
- ㉓ 浅野竹二(ひげのある紳士)1985年
- ㉔ 浅野竹二(母と子と鳥と)1980年
- ㉕ 浅野竹二(イメージB)1988年
- ㉖ 浅野竹二(窓際の Copp)1986年
- ㉗ 浅野竹二(うすぐるもの)1986年
- ㉘ 浅野竹二(考える人)1983年
- ㉙ 浅野竹二(舟にのる鳥)1986年

### 伊藤継郎

#### ⑨《鳥(にわとり)》



#### ⑩《鳥》



#### ⑪《花》



#### ⑫《花》



### 伊藤継郎(1907年大阪府生まれ1994年没)

大阪の近代洋画史を語るうえで欠かせない重要な画家や画談、美術団体と関わりを持ち、戦前から戦後にかけて、大阪・関西の洋画壇、美術界を見守り続けてきました。松原三五郎の天彩画塾、赤松麟作の洋画塾に学び、その後は信濃橋洋画研究所の小出椿重、鍋井亮之、国枝金三、黒田重太郎、新制作の小磯良平、具体の吉原治良らと出会い、交友を深めています。新制作を舞台に穂健で堅実な作品を描きましたが、子どもや動物が好きで、声屋のアリエでは、児童絵画教室を開いたり、鳥や動物を多く飼っていました。展示では、鳥や動物、風景、人物、花などの小品をテーマごとに紹介します。